

ZENCOLO

ゼンコロ



「人間回復の砦」 なのみ（古賀市）
福岡コロニー発祥の地 ポンプ小屋跡地に建つ

綱 領

現代社会には、身体的又は精神的な障害を持つ人々が相当数存在し生活している。私たちは戦後の混乱のなかから、自らが生き、働く場をつくる事業と運動を共同してすすめてきた。しかし障害を理由に、生きる諸権利が制限される状況は、今日もなお続いている。

進歩した社会とは、すべての人々の自由と尊厳が守られ、平和で人間らしい生活を送ることができる社会であり、このことは人類共通のねがいである。

私たちは人間尊重の理念にたち、完全参加と平等をめざし、我が国の関係制度や社会・経済・文化的諸条件の改善を図り、特に障害者の働く権利が具体的に保障され、すべての人々がしあわせに生きることができる社会の実現に向けて連帯し、積極的に行動する。

（1967年10月15日制定 1990年12月4日改訂 現在に至る）

私たちの誓い

1. 私たちは、試されたことのない道を自分たちの手でひらく開拓者の心をもち続けます。
（開拓者の心）
2. 私たちは、さまざまな困難を乗り越え、働くことをつうじて積極的に社会に貢献することをめざします。
（働く喜び）
3. 私たちは、ひとりひとりの多様な可能性を信じて、新しい能力を育てる努力を続けます。
（可能性の追求）
4. 私たちは、お互いに協力し、励まし合い、かわることのない連帯でしあわせを築きます。
（連帯と協力）
5. 私たちは、心を合わせて、すべての人がもっとも人間らしく生きることのできる平和で豊かな社会の実現をめざします。
（豊かな社会）

重度障害者の職域の拡大を！ 重度障害者の完全就労と雇用を！ 障害者の社会参加を！（ゼンコロメインテーマ）

・青森県コロニー協会・青森市017 (728) 5621・山形県コロニー協会・山形市023 (641) 7335・ながのコロニー・長野市026 (293) 8766・東京コロニー・中野区03 (3952) 6166・東京アフターケア協会・清瀬市0424 (91) 1236・あかつきコロニー・武蔵村山市0425 (60) 7840・京都梅花園・城陽市0774 (52) 1362・山口県コロニー協会・防府市0835 (32) 0069・福岡コロニー・粕屋郡092 (963) 2781・佐賀春光園・三養基郡0942 (94) 2144・熊本県コロニー協会・熊本市096 (353) 1291・沖縄コロニー・浦添市098 (877) 3344
ゼンコロホームページ <http://www.tocolo.or.jp/zencolo>

新「アジア太平洋障害者の十年」（2003～2012）を推進しよう

巻頭言

新生ゼンコロに向けて

社団法人ゼンコロ 会長 勝又和夫



1. はじめに

社団法人ゼンコロは、第二次世界大戦前後の国民の死亡原因の第一位であった結核の回復者が、入院先の医師等の支援によって病院の近くに暮す場を設け、生活の糧を得る事業を全国的な規模で支援し合って活動してきました。1961年に法人格を取得するまでは任意団体での活動で、内部障害者と認められたことを機会に、任意団体から社団法人になったもので、その創業の初期から数えると58年目の年を迎えています。

ゼンコロの正会員は現在では12の社会福祉法人となっていますが、任意団体で活動していた時期には最大で43ヶ所あり、これらが事業閉鎖や合併などを経て今日に至っています。その歴史は『人間回復の砦』(出版：ゼンコロ 事務局に申し込んでいただければ、お送りいたします)を読んでもいただければと思いますが、その歴史は公的な援助がまったく得られない中で、何人もの仲間の死を見つめながらの活動であったとも言えます。

私自身も結核菌による後遺障害者で、会員法人に所属する大多数の方は結核とは縁遠くなっているのが実情と言えますが、当事者が自らの暮す場と生活の糧を得るといったゼンコロの真髄とも言える理念は、結核とは関係ない人たちを多く迎えても今日まで、尚守り通してきたものです。わが国の経済成長の中で障害者福祉も一定の改善は図られていったものの、成長の陰で多くの問題も取り残されていきました。こうしたことから実践を通して制度改善に反映させる取組みなど事業経営と障害者運動を地道に展開して今日に至っています。社団法人ゼンコロの原点である「暮し、働くこと」を基礎に、3本の柱となる理念は「当事者主体」、「企業性」、「民間性」であり、これらを表現するために綱領がまとめ上げられ、運営の指針となっています。

2. ゼンコロの過去・現在・未来

現在のゼンコロは正会員12法人に3,400名を超える所属者がおり、事業も数十種類の施設や福祉サービス、業種に広がりました。ある県では障害者

福祉とともに特別養護老人ホームや老健施設の運営を展開していますが、県内全福祉圏域にヘルパーステーションを開設することも目指しています。さらにある県では民間事業者を含めても第一位の売上高を誇る印刷事業を行なっていますが、第二位との比較では2倍近い規模の事業を展開しているというところも現われています。また、行政からの民間委託や指定管理者としての受け皿となったり、各地域や在宅就労分野での役割を発揮するなど、ゼンコロの法人格取得の初期に比べて正会員の各法人の事業活動は障害者福祉に留まることなく、比較にならない程に幅広い事業実態となっています。

昨年12月に公益法人改革が5年間の猶予期間をもって実施に移されましたが、私共としても改めてこの公益法人改革にどのように対応するかが問われることになっています。本年6月の定期総会において「新生ゼンコロ」を目指す組織改編や人事体制などを議決しましたが、その一歩が今年度より本格的に開始となる訳でもあります。

「障害者自立支援法」下にある現在、株式会社を含めた民間参入は今後更に加速されると思われ、私共ゼンコロは現在の事業と公益性を守り、発展させるために外部から二人の医師(いずれも精神障害者に深く関わる役職にあり、厚労省及び東京都での行政経験を有する)を役員に迎え、組織強化を図ります。合わせて理事会の下に次世代を担う素材を有する人々による運営委員会を発足させ、日常運営は可能な限り運営委員会に権限を委譲します。運営委員会の事業方針を具体化するために事業プロジェクトと企画プロジェクトを発足させる新しい体制としますが、事業プロジェクトはかつての「暮らし、働く」を課題に、企画プロジェクトは「運動的側面」の課題を現在に置き換えて担うものです。こうした中から重層的な人材の発掘を行い、共に新生ゼンコロの核としてその役割を発揮してくれる人材が生まれるものと期待しています。

また、私共の3つの理念に賛同し、加入を申し

込んでいただける組織があるならば、事業主体に捉われることなく、かつての遠慮を超えて新しい仲間として迎え入れたいと思っています。ゼンコロ規程に定める会費納入が難しい組織からの参入希望があるのならば、賛助(ゼンコロの理念に賛同し、共に事業を通じて助け合う)会員または準会員として共に活動できる保障も考えています。こうした「新しい血」が加わることにより、多様な事業主体にも決して負けない体質の構築と、3年後には公益社団としての認定が得られるような積極的な公益性のある活動をゼンコロとして展開していくこととしています。

3. 障害者福祉を取り巻く環境

2001年に始まった小泉構造改革は、わが国にとっては遅れてやってきたサッチャー（英国）、レーガン（米国）改革であって、これらの基調を為すのは「ネオコン」と呼ばれる新自由主義と市場原理主義であると受け止めています。これらの国のその後を見ると、英国においてはブレア政権の下でひずみの解消が図られていますが、米国では行き過ぎた市場原理主義によって金融恐慌を招き、経済の面でもリーマン・ブラザーズやクライスラー、AIG、GMといった名だたる企業が倒産し、その改善の兆しも見えないまま、極端な格差社会を生んでいます。

かく言うわが国においても、1929（昭和4）年以來の大不況の中にあり、政治は選挙目当てとも思えるバラ撒きに終始していますし、先進国の中では最も大きな経済の落ち込み（本年1月から3月までの経済指標では年度換算でマイナス15.2%）や、雇用統計の悪化（失業率5%、有効求人倍率0.46、失業者数364万人、ワーキングプア1,000万人以上等）が私たちの事業や暮らしにどのような影響を与えてくるのか、心配が深まる一方の状況にあります。

小泉構造改革は格差社会(所得、地域間等)を決定的なものにし、この構造改革の名の下に、障害福祉分野においても「障害者自立支援法」という「障害自己責任論」や「障害家族責任論」を核にした新法が制定されましたが、多くの障害者や市民の声によって何度となく手直しが行われてきたのが周知の事実であります。ただし、この法の問題点等についてはすでに裁判が起きていたり、毎年の様に何千人、何万人という障害当事者やその支

援者が全国各地で行動を起こしています。むしろ障害者福祉においては、本年中には改正される障害者基本法の定時改正問題と国連で発効をみている「障害者の権利条約」の批准を、如何に高いレベルで行うかが問われていると思っています。また、この権利条約の批准の前段階の問題として、2007年8月15日に全国福祉保育労働組合がILOに行った「日本の障害者雇用政策に関するILO 159号条約違反」に関する申し立ての成り行きも、権利条約の批准のレベルを決める上では重要な要素を含んでおり、大いに注目しなければならないと思っています。

このように見てきた時、障害者福祉を取り巻く環境は政府の政策とのせめぎ合いの状況にあり、小泉構造改革で特に強調された「グローバルスタンダード」なる言葉は、障害福祉分野における欧州などの先進国との比較において用いられるべきだと言えますし、障害者問題は象徴的なものであって、このことの背景にはあらゆる市民層のセーフティネットの問題があると思っています。私共の活動においては評価すべき点は率先して取組むとともに、問題点はその改善が真になされるまでは法の枠組みの見直しを超えてでも為すべきだとの意見を発信していきたいと考えています。

4. さいごに

「新生ゼンコロ」をキーワードに書かせていただきましたが、ゼンコロやわが国の障害者福祉を時系列的に考えると、この間では20世紀の後半に立ち止まり、また戻された感の強いものでありました。私自身、今年5月に行われた社会就労センター協議会関係での役員改選において、本籍の東京コロニーでの役割の増加などもあってすべての役職を辞し、極めてフリーな立場を得ることができたと思っています。フリーだからこそ出来ることをゼンコロの仲間と共に精一杯頑張り、「ゼンコロ、ここに在り」と言ってもらえるような存在となるように努力したいと思っていますし、ゼンコロの皆様のご理解とご協力、またゼンコロを支えてくださっている多くの皆様の変わらぬご援助をお願いし、真に障害のある人たちの一人ひとりの幸せを実現させるために共に考えることをお願いして筆を置かせていただきます。

第53回ゼンコロ総会を開催



定期総会

3月6日に理事会と臨時総会が持たれ、2009年度事業計画・予算の審議、承認とともに外部から新しい理事(野村 瞭氏)と監事(仮屋 暢聡氏)の就任が提案、承認されました。

そして6月1日(月)から2日(火)にかけて、東京・中野サンプラザで理事会と第53回定期総会を開催しました。定期総会では、任期満了に伴う新役員の選出、従来の三委員会に代わって新しい組織である運営委員会、事業プロジェクト、企画プロジェクトの各委員の選出確認とそれぞれの委員長、副委員長の承認、各委員会の課題の共有化、2008年度事業報告書・決算書の審議・承認などが行なわれ、重要課題の多い「新生ゼンコロの出発」にふさわしい総会となりました。

社団法人ゼンコロ 新役員名簿

氏 名	役 職 名	所 属 法 人 / 役 職
勝又 和夫	理事 (会長)	東京コロニー 理事長
金城 康博	理事 (常務理事)	沖縄コロニー 理事長
武者 明彦	理事 (事務局長)	東京コロニー 常務理事
横内 正秋	理 事	青森県コロニー協会 理事長
須貝 寿一	理 事	山形県コロニー協会 常務理事
稲玉 三雄	理 事	ながのコロニー 理事長
湯澤 弘	理 事	あかつきコロニー 理事長
杉山 正胡	理 事	山口県コロニー協会 常務理事
小峠 繁	理 事	福岡コロニー 常務理事
大石 安弘	理 事	佐賀春光園 常務理事
櫛山 哲夫	理 事	熊本県コロニー協会 常務理事
野村 瞭	理 事	財団法人 復光会 専務理事
平田 秩子	監 事	京都梅花園 理事長
仮屋 暢聡	監 事	まいんずたわークリニック 院長

理事就任にあたって

野村 瞭



3月の総会で理事就任をご承認いただいて、既に6月の理事会に出席をいたしました。総会を欠席いたしましたので、紙上で改めてご挨拶申し上げます。

事前に勝又会長から理事就任を打診をされました。お役に立つかどうか分からないと申し上げましたが、ゼンコロとして精神障害者の方々をも考慮した新しい体制をつくる必要がある旨を強調されたことと、むしろ私にとってプラスになるだろうという、ゼンコロにとっては関係ない魂胆もあり、お引き受けすることにいたしました。

私はこれまでの仕事のほとんどは旧厚生省、旧環境庁および地方自治体(熊本県、岡山県、千葉県)における行政であり、しかも身体障害者、知的障害者の方々を対象にした仕事には就いておりませんでした。したがって、これは遠慮すべき話かとも思った次第ですが、精神障害者行政には2年足らずですが携わったことがあり、また、ここ6年ほど精神病院の運営に関わっておりますので、精神障害者の方々の福祉向上の取り組みでは、少しはご協力できるかとも思いました。

一方で、ゼンコロに関わることで、逆に、精神障害者の方々の抱える問題の解決に何か得るところがあるのではないかと、私は現在、障害をもつ水俣病胎児性患者さんのための授産事業等を現地で運営する社会福祉法人の理事を務めているほか、岡山県を中心として心身障害児(者)等の福祉事業を展開している(社福)旭川荘の理事を引き受けておりますので、そちらの仕事にも役に立つのではと期待をしたのでした。

理事会に出席した際には十分に分からなかったのですが、その後、渡辺事務局次長を通じて毎日のように送られてくるメールにより、ゼンコロが自らの事業だけでなく、当面課題になっている障害者の人権や制度の不備等の問題解決に向けて、関係団体と協力して日々勢力的に取り組んでおられる様子を知り、驚愕すると同時に身の引き締まる思いがいたしました。

Giveが少なくTakeばかり多くなるようで大変申し訳なく思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

履歴

東京大学医学部卒業
東京大学社会医学系大学院(公衆衛生)終了
厚生省公衆衛生局精神衛生課長
岡山県環境保健部長
千葉県衛生部長
環境庁企画調整局環境保健部長
環境庁大気保全局長
国立水俣病総合研究センター所長
財団法人復光会専務理事

新監事

仮屋 暢聡



履歴

鹿児島大学医学部卒業
鹿児島生協病院
東京都立松沢病院
東京都立中部総合精神保健福祉センター 医療科医長
東京都健康局医療サービス部精神保健福祉課長
まいんずたわーメンタルクリニック開設
医療社団法人KARIYA理事長

ゼンコロの現状（会員法人の合計平均調査結果）

毎年ゼンコロで会員法人を対象とした調査を実施し、それを6月の定期総会で報告している資料が3つあります。①障害・非障害者総括表、②工賃と就労移行の状況、③経営状況の3資料で、ゼンコロの現状を端的に表していると考えられますので、前年度対比をしながら報告いたします。

資料1 障害・非障害総括表（単位：人）

	①身体 障害者	②知的 障害者	③精神 障害者	④その他 の障害者	⑤障害者 合 計	⑥その他 の利用者	⑦非障害者	⑤+⑥+⑦
全合計	1,146	421	113	4	1,684	601	1,181	3,466
前年度	1,171	368	71	2	1,612	285	1,239	3,136
増 減	▲ 25	53	42	2	72	316	▲ 58	330

資料1では、障害種別と非障害者、全体の構成人数を示しています。今年の3月末現在の全体の構成人数は3,466名で、前年同月と比べ、330人増えています。特に沖縄コロニーで実施している高齢者支援事業関係の利用者が大きく増え、また、非障害者の「従業員等」が逆に減少しているのが特徴と言えます。

資料2 工賃と就労移行の状況（単位：人、円）

	定員（人）	平均現員	平均工賃 （1ヶ月）	一般企業等 への移行
全合計平均工賃	1,819	1,508.6	71,730	42
2007年度実績	1,795	1,492.1	64,229	46
増 減	24	17	7,501	▲ 4

資料2は、工賃の状況と就労移行状況について調べていますが、就労移行支援事業の調査は前年度から始めた、新しい調査内容です。工賃が支給されている利用者は全体平均で1,508人。福祉工場や就労継続支援A型事業（雇用）利用者を含む1人当たり平均工賃は71,730円と、前年同月に比べ、7,501円アップしました。厳しい事業環境の中にも、工賃保障を厚く進めているのが伺えます。

就労移行は全体で42人に留まり、前年の46人より4人減りました。就労移行支援事業を実施している8法人合計で利用者現員が240名いますが、移行率は17.5%となりました。前年度が6法人、215人、移行率21.4%でしたので、各法人とも就労移行业業に苦勞していることが伺えます。就労移行がなかなか向上しない原因はさまざまですが、それぞれの法人内部の移行支援体制が人的、技術的とも整備されつつある中で、就職先の企業等の開拓が、昨今の経済状況の悪化の影響をもろに受けて厳しくなったことなどもありますし、地域、地方によって就職できる企業が大都市に比べ圧倒的に少ないことも、見逃せない要因と見ています。就労移行支援事業は2年間の有期限事業でもあり、利用者の多くは、就労継続支援B型その他の事業への移行を迫られることがない様に、さらに努力が求められます。

資料3 経営状況（会員法人合計）

① 2008年度決算（単位：千円、％）

	予 算	決 算	増 減	前年度決算	対前年度伸率
総収入	16,228,566	16,715,745	487,179	16,435,731	1.7%
総支出	15,634,501	16,342,793	708,292	16,193,334	0.9%
当期損益	594,065	372,952	▲ 221,113	242,397	53.9%
前期繰越金	4,233,389	4,822,749	589,360	4,233,389	13.9%
繰越金累計	4,827,454	5,197,165	369,711	4,829,212	7.6%

② 2009年度予算（単位：千円、％）

	前年度決算	予 算	増 減	対前年度伸率
総収入	16,715,745	15,693,610	▲ 1,022,135	-6.1%
総支出	16,342,793	15,235,406	▲ 1,107,387	-6.8%
当期損益	372,952	458,204	85,252	22.9%
前期繰越金	4,822,749	5,197,165	374,416	7.8%
繰越金累計	5,197,165	5,655,369	458,204	8.8%

資料3では、法人経営の総収入、総支出、当期損益、繰越金など収支状況の会員法人分を集計したものです。対前年度実績や予算との比較では、法人によってバラつきはありますが、全体では収入増よりも支出増が大きく、予算どおりの事業収益の確保が難しかった状況を表していると言えます。

総じて、経済状況が大変厳しい中で、前年度に比べ障害を持つ利用者が増え、利用者工賃を保障する努力がなされているといえるでしょう。ただ、就労移行业業の取組みがにおいて、企業等への就職を本格的に支援するために、利用者の能力、適性などのきちんとした把握、施設内部での教育、訓練、就職先の開拓、定着支援などきめ細かな対応が相当に求められています。そのためにも支援する側の従業員の体力、更なるスキルアップが求められるとともに、支援体制を厚くするために就労移行の先の企業等のを相当程度確保していくことも、厳しい経済環境にありますが必要なことと思われます。

2008 (平成20) 年度
社団法人ゼンコロ事業報告・決算書
(2008年4月1日～2009年3月31日)

1. はじめに

下半期に米国金融機関の破綻に端を発した世界同時金融恐慌で、日本の経済や国民生活にも深刻な影響を与えた。しかし、国民生活の深刻さは実は、2000年の小泉政権による一連の構造改革政策によって方向づけられたとみられ、わが国の社会福祉制度もその時点で深刻な方向へ大きく舵を切ることとなった。その一つが障害者自立支援法の成立施行で、施行3年後の見直し改正法案も3月31日に閣議決定され、即日衆議院に上程された。障害当事者や関係団体による粘り強い運動で負担軽減を盛り込んだ内容となっているが、利用者負担そのものを温存しており、全ての障害者が対象になっていないなど、本質的には変わっていないとみている。

障害者自立支援法が憲法の13条(幸福追求の権利)、14条(法の下での平等)、25条(生存権)、27条(労働の権利)に明白に違反しているとする訴訟に向けて、29名の障害者が10月31日に全国8地裁へ一斉提訴を起こした。2009年4月には全国32名が二次訴訟に踏み切っている。ゼンコロとしてもこの訴訟に日本障害者協議会(JD)をとおして支援した。わが国の障害者雇用の現状がILO159号条約、168号勧告および99号勧告に違反しているとして、2007年8月15日付でILOへ申し立てた「ILO提訴問題」では3月31日、国際労働基準局長クレオパトラ・ドンピア・ヘンリー名で全国福祉保育労働組合委員長宛に、第304回ILO理事会で採択された報告書が届いた。これによると、①2010年予定の次回の条約に関する年次報告において、日本は詳細な情報を盛り込むことが要請され、②ILOの条約勧告適用専門化委員会に、提起された問題に対する調査の続行を委ねることとなった。引続き日本政府はその対応に迫られることとなったわけで、ゼンコロとしても重大な関心を持って注視していきたい。「障害者の権利条約」の批准承認では、3月に閣議決定する動きがあったが、必要な国内法の整備や既存法制の改定が進まない中で形式承認するのは問題があるとして、障害者差別禁止法の制定や、モニタリングするための監視機構の創設などを含め、引続きJDをとおして運動を強めていきたい。「障害者基本法」の定時改正が6月に迫っているが、改正は障害者権利条約の批准にも絡む重要な問題として認識しており、充分な検討を求めている。

ゼンコロ内部の活動として、制度改革対策委員会の事務局会議を4月に開催し、新会計並びに新事業体系への移行に伴う課題と今後の対応について情報交換を実施した。ま

た、定期総会の6月開催とともに3月に2009年度事業計画・予算に関する臨時総会を開催した。4事業委員会の活動は引続き継続し、情報交換、会員法人の課題への対応、独自財源の確保などに努めたが、会員法人の主幹事業である印刷事業の安定・拡大は充分に図ることができず、危機意識の共有化と当面の打開策に関する研修会を1月に開催した。

2009年度6月定期総会において役員改選が予定されており、そのため10月3日に理事会を持って新体制の構築に関して審議を行った。その結果、ゼンコロ三役を補佐し、事実上の執行機関として活動し、次世代の育成を担う「運営委員会」を設けることを決定して、その準備会をスタートさせた。準備会は年内に4回の会議をもち、運営委員会の任務・役割を明確にするとともに、従来の三委員会を整理統合して、「事業プロジェクト」「企画プロジェクト」の二つのプロジェクトに編成し直す提案が出され、3月6日開催の理事会・臨時総会でその方針が承認された。

2008年12月1日から公益法人改革制度がスタートしたが、当面は公益社団、一般社団の選択・申請は行わず、「特例民法法人」として従来の公益法人活動を継続することとした。2013(平成25)年11月30日までの5年間の間に内部検討を重ね、遅くとも2012年6月総会までに移行法人の結論を出して申請することとした。また、より高い公益性を目指すため、外部からの意見も取り入れることが必要として、新任理事として財団法人復光会専務理事で医師の野村瞭先生を選任した。さらに、医師で医療法人社団KARIYA理事長の仮屋暢聡先生を監事として迎えた。

2. 国内動向への対応

(1) ワークアビリティ・インターナショナル(WI)の年次総会が9月、札幌で開催された。ゼンコロとしても全面的に協力し、会員法人からは計11名の代表を派遣してその成功を見届けるとともに、参加者からは有意義であったとの報告を得た。その後、WIへの団体加盟は会員法人がセルフ協の会員でもあることから、今後はセルフ協をとおしてWIの活動に参加することが10月3日の理事会で承認され、1月9日付で退会した。また、障害者の権利条約の啓蒙に向けて、福祉新聞社が発行した「障害者権利条約で社会を変えたい」をまとめて購入し、会員法人へ原則全員分を配布して活用した。

(2) イエローリボン・バッジを販売した。

(3) 財団法人日本障害者リハビリテーション協会の協力を得て、同協会の機関誌「ノーマライゼーション」に

シリーズ掲載されている「わがまちの障害福祉計画」を、2004年4月号から2008年11月号までの44回分をまとめて『わがまちの障害福祉計画』として、日本障害者協議会と共同で、自治体による第二次の障害福祉計画策定が3月に行われることを念頭に、さらに豊かな障害福祉計画を各自治体で策定していただけるよう、他の自治体の事例を参考として活用していただくことを目的に、4,000冊を2月に発行し、全国都道府県・市区町村へ約1,800部を無償配布するとともに、会員法人にもそれぞれの所属自治体で事業と結びつける活用をしてもらい、さらに320部を有償販売した。

3. 会員法人間の相互啓発、交流の促進

三委員会（企画総務、印刷事業、新規事業）と制度改革対策委員会の事務局会議を引き続き運営し、事業の充実と向上、情報交換の密度を高め、施設運営の安定に努めた。また、障害者の働く権利の向上のために、JDに置かれた「社会支援雇用研究会」に委員4名を送る等の取組みに努めた。

(1) 企画総務委員会

- ① 4月に制度改革対策委員会の事務局会議に併せて開催し、情報交換に努めた。
- ② 11月に企画総務委員会を山形市で開催し、情報交換に努めた。
- ③ JDと連携した課題に取り組んだ。
- ④ 事業移行の状況、利用者の工賃状況、就労移行の状況などの調査を実施した。
- ⑤ 新会計基準の導入に対する支援を引き続き行った。
- ⑥ ホームページの充実と更新に努めた。
- ⑦ 広報誌を7月、1月の2回発行した。

(2) 印刷事業委員会

- ① 印刷事業の課題整理と研修会実施のため、10月10日委員会を開催した。
- ② 「経済の未曾有の危機をどう乗り切るか」をテーマに、営業管理職を対象にした研修会を1月21日に開催した。

(3) 新規事業委員会

- ① 環境事業を引続き継続して独自財源の確保、関係法人の収益向上に努めたが、下期から古紙市況が厳しい状況を迎える中で、環境事業の収益はなんとか予算をオーバーすることができた。
- ② ヘルパー事業は、研修会開催に関するアンケートを実施した。

(4) 制度改革対策委員会

- ① 事務局会議を4月に開催した。

4. 会議の開催

- (1) 第52回の総会および理事会を6月に、臨時総会・理事会を3月に、それぞれ東京で開催した。
- (2) 理事会は、上記以外で10月に開催した。
- (3) 三役会議を、5月、8月、1月と3回開催した。
- (4) 運営委員会・準備会を、10月、11月、12月、1月と4回開催した。

貸借対照表 (平成21年03月31日現在)				
全合計		(単位：円)		
科	目	当 年 度	前 年 度	増 減
I	資産の部			
1.	流動資産			
	現金預金	28,302,044	24,387,582	3,914,462
	未収金	10,000	287,414	▲ 277,414
	売掛金	1,511,729	1,798,625	▲ 286,896
	公益事業勘定（資産）	2,315,675	2,735,879	▲ 420,204
	収益事業勘定（資産）	18,689,360	12,908,806	5,780,554
	特別事業勘定（資産）		423,771	▲ 423,771
	流動資産合計	50,828,808	42,542,077	8,286,731
2.	固定資産			
	その他固定資産			
	什器備品	69,374	80,725	▲ 11,351
	その他固定資産合計	69,374	80,725	▲ 11,351
	固定資産合計	69,374	80,725	▲ 11,351
	資産合計	50,898,182	42,622,802	8,275,380
II	負債の部			
1.	流動負債			
	買掛金	1,916,991	2,529,764	▲ 612,773
	未払金	430,860	143,696	287,164
	預り金	5,668,280	303,343	5,364,937
	公益事業勘定（負債）	18,689,360	13,332,577	5,356,783
	収益事業勘定（負債）	2,315,675	2,312,114	3,561
	特別事業勘定（負債）		423,765	▲ 423,765
	未払消費税等	305,000		305,000
	未払法人税等	1,079,600		1,079,600
	流動負債合計	30,405,766	19,045,259	11,360,507
2.	固定負債			
	負債合計	30,405,766	19,045,259	11,360,507
III	正味財産の部			
1.	指定正味財産			
2.	一般正味財産	20,492,416	23,577,543	▲ 3,085,127
	正味財産合計	20,492,416	23,577,543	▲ 3,085,127
	負債及び正味財産合計	50,898,182	42,622,802	8,275,380

財産目録 (平成21年03月31日 現在)		
全合計		(単位：円)
科	目	金 額
I	資産の部	
1.	流動資産	
	現金預金	28,302,044
	未収金	10,000
	売掛金	1,511,729
	公益事業勘定（資産）	2,315,675
	収益事業勘定（資産）	18,689,360
	流動資産合計	50,828,808
2.	固定資産	
	その他固定資産	
	什器備品	69,374
	その他固定資産合計	69,374
	固定資産合計	69,374
	資産合計	50,898,182
II	負債の部	
1.	流動負債	
	買掛金	1,916,991
	未払金	430,860
	預り金	5,668,280
	公益事業勘定	18,689,360
	収益事業勘定	2,315,675
	未払消費税等	305,000
	未払法人税等	1,079,600
	流動負債合計	30,405,766
2.	固定負債	
	負債合計	30,405,766
III	正味財産の部	
1.	指定正味財産	
2.	一般正味財産	20,492,416
	正味財産合計	20,492,416
	負債及び正味財産合計	50,898,182

正味財産増減計算書			
(平成20年04月01日から平成21年03月31日まで)			
全合計	(単位: 円)		
科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①受取会費			
正会員受取会費	9,926,400	12,211,200	▲ 2,284,800
特別会員受取会費		100,000	▲ 100,000
②事業収益			
印刷事業収益		489,277	▲ 489,277
売上収益	23,765,066	22,489,500	1,275,566
③受取補助金等			
受取民間助成金		2,100,000	▲ 2,100,000
④受取寄付金			
受取寄付金		200,000	▲ 200,000
⑤事業外収益			
受取利息	28,772	32,431	▲ 3,659
⑥雑収益			
雑収益	247,700	7,800	239,900
書籍販売収益	320,000	910	319,090
⑦他会計からの繰入金収入			
他会計からの繰入金収入	2,000,000	1,083,267	916,733
経常収益計	36,287,938	38,714,385	▲ 2,426,447
(2) 経常費用			
①事業費			
会議費	2,670,732	1,555,435	1,115,297
人件費	6,105,721	8,428,162	▲ 2,322,441
消耗品費	327,396	117,348	210,048
通信運搬費	357,728	419,441	▲ 61,713
旅費交通費	2,864,724	1,684,058	1,180,666
印刷費	2,153,720	11,300	2,142,420
交際費	185,170	291,670	▲ 106,500
事務局使用料	599,760	514,080	85,680
研修費	39,413	159,600	▲ 120,187
関係団体費	830,729	820,000	10,729
研究資料費	1,254,960	474,850	780,110
会報印刷費	701,129	633,591	67,538
支払手数料	104,220	126,415	▲ 22,195
租税公課	335,800	11,000	324,800
仕入費	12,423,758	13,171,831	▲ 748,073
業務委託費	252,000		252,000
雑費	1,055,080	270,494	784,586
諸謝金		150,000	▲ 150,000
印刷事業支払手数料		244,639	▲ 244,639
事業費計	32,262,040	29,083,914	3,178,126
②管理費			
総会費	143,540	257,907	▲ 114,367
会議費	111,840	37,790	74,050
人件費	1,486,275	1,764,126	▲ 277,851
消耗品費	141,754	154,250	▲ 12,496
通信運搬費	129,165	53,006	76,159
旅費交通費	320,820	45,040	275,780
交際費	41,855	71,513	▲ 29,658
事務局使用料	257,040	342,720	▲ 85,680
減価償却費	11,351	11,351	
支払手数料	11,385	14,070	▲ 2,685
租税公課	400	71,700	▲ 71,300
業務委託費	492,000	294,000	198,000
管理費計	3,147,425	3,117,473	29,952
③他会計への繰出金			
他会計への繰出金	2,000,000	1,083,267	916,733
経常費用計	37,409,465	33,284,654	4,124,811
当期経常増減額	▲ 1,121,527	5,429,731	▲ 6,551,258
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
⑤特別利益			
前期損益修正益		504	▲ 504
前期損益修正益 (資金)		504	▲ 504
経常外収益計		504	▲ 504
(2) 経常外費用			
法人税等			
法人税等	1,963,600	4,800	1,958,800
経常外費用計	1,963,600	4,800	1,958,800
当期経常外増減額	▲ 1,963,600	▲ 4,296	▲ 1,959,304
当期一般正味財産増減額	▲ 3,085,127	5,425,435	▲ 8,510,562
一般正味財産期首残高	23,577,543	18,152,108	5,425,435
一般正味財産期末残高	20,492,416	23,577,543	▲ 3,085,127
III 正味財産期末残高	20,492,416	23,577,543	▲ 3,085,127

収支計算書			
(平成20年04月01日～平成21年03月31日)			
全合計	(単位: 円)		
科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①会費収入			
正会員会費収入	9,925,200	9,926,400	▲ 1,200
②事業収入			
売上収入	19,300,000	23,765,066	▲ 4,465,066
③寄付金収入			
寄付金収入	200,000		200,000
④事業外収入			
受取利息収入	31,000	28,772	2,228
⑤雑収入			
雑収入	70,000	247,700	▲ 177,700
書籍販売収益	1,000	320,000	▲ 319,000
⑥他会計からの繰入金収入			
他会計からの繰入金収入	490,000	2,000,000	▲ 1,510,000
事業活動収入計	30,017,200	36,287,938	▲ 6,270,738
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
会議費支出	2,260,000	2,670,732	▲ 410,732
人件費支出	6,176,100	6,105,721	70,379
消耗品費支出	140,000	327,396	▲ 187,396
通信運搬費支出	387,800	357,728	30,072
旅費交通費支出	2,930,000	2,864,724	65,276
印刷費支出	61,000	2,153,720	▲ 2,092,720
交際費支出	162,000	185,170	▲ 23,170
事務局使用料支出	600,000	599,760	240
研修費支出	100,000	39,413	60,587
関係団体費支出	850,000	830,729	19,271
研究資料費支出	390,000	1,254,960	▲ 864,960
会報印刷費支出	630,000	701,129	▲ 71,129
支払手数料支出	90,000	104,220	▲ 14,220
租税公課支出	11,000	335,800	▲ 324,800
仕入支出	11,066,000	12,423,758	▲ 1,357,758
雑支出	10,000	1,055,080	▲ 1,045,080
②管理費支出			
総会費支出	2,245,300	3,136,074	▲ 890,774
会議費支出	150,000	143,540	6,460
人件費支出	20,000	111,840	▲ 91,840
消耗品費支出	1,089,900	1,486,275	▲ 396,375
通信運搬費支出	150,000	141,754	8,246
旅費交通費支出	53,000	129,165	▲ 76,165
交際費支出	45,000	320,820	▲ 275,820
事務局使用料支出	30,000	41,855	▲ 11,855
支払手数料支出	257,000	257,040	▲ 40
租税公課支出	14,000	11,385	2,615
業務委託費支出	5,000	400	4,600
③他会計への繰出金支出			
他会計への繰出金支出	490,000	2,000,000	▲ 1,510,000
事業活動支出計	28,851,200	37,398,114	▲ 8,546,914
事業活動収支差額	1,166,000	▲ 1,110,176	2,276,176
II 投資活動収支の部			
III 財務活動収支の部			
財務活動支出			
特別損失			
法人税等	1,166,000	1,963,600	▲ 797,600
財務活動支出計	1,166,000	1,963,600	▲ 797,600
財務活動収支差額	▲ 1,166,000	▲ 1,963,600	797,600
IV 予備費支出			
当期収支差額		▲ 3,073,776	3,073,776
前期繰越収支差額	23,577,543	23,496,818	80,725
次期繰越収支差額	23,577,543	20,423,042	3,154,501

2009 (平成21) 年度
社団法人ゼンコロ 事業計画・予算書
(2009年4月1日～2010年3月31日)

1. はじめに

前年、米国の低所得者向け住宅ローンを柱とするサブプライムローンの破綻問題をきっかけとする金融不安が全世界に広がり、1929年 (昭和の大恐慌) 以来の大恐慌の予兆の中で世界経済に大きな影響を与えている。この様に経済動向は、世界的な恐慌の中に置かれる不透明な状況が深く、永く続くと思ざるを得ない。ゼンコロ会員法人の主たる事

業である印刷事業の業界も「竜巻に襲われる」覚悟を持って対応を図り、大胆な対策とともに周辺領域を含めた事業拡大を早急に検討、実施するとともに、合わせて「脱印刷」の覚悟も視野に入れた新しい事業を検討していく。

前年5月3日に効力を発した「障害者の権利条約」は、前年末で44カ国が批准し、日本など137カ国が署名した。我が国も批准に向けて準備が進められており、厚生労働省で

「労働・雇用分野における障害者権利条約への対応に関する研究会」の活動が開かれるとともに関係各省庁との協議が行われているが、文部科学省以外、残念ながら表立った成果がない。前年9月に福祉新聞社から発行された『障害者権利条約で社会を変えたい』などを十分に活用し、権利条約に対応した「障害者総合福祉法」や「障害者差別禁止法」の制定に向けて、日本障害者協議会を通じて引続き活動を重ねていきたい。また、障害者基本法の定時改正でその場をしのぐことなく、必要な国内法の整備についても、その改正が確実に進められるよう注視していく。

障害者の国内雇用状況がILO159号条約、168号勧告および99号勧告に違反しているとした「ILO申し立て問題」を始めとして、本年4月1日より施行される改正障害者雇用促進法の効果、障害者自立支援法が憲法13条の幸福追求権や14条の法の下での平等、さらには25条の生存権に違反するとして「障害者自立支援法違憲訴訟」が起こっているが、引続き重大な関心を払い、これらを見守っていくこととする。

ゼンコロ内部の課題として、今後の組織体制と将来の運営体制の確立をめざして「運営委員会」を新たに創設し、次世代の育成に力を入れていく。また、運営委員会の下に従来の3委員会を整理して「事業プロジェクト」と「企画プロジェクト」を設け、変化に対応して行動する事業活動を展開する。具体的には印刷事業の大胆な対策や、印刷に代わる新しい事業の検討・確保、公益事業を補填する収益事業活動の安定、障害福祉関係や一般市民に向けた公益的事業を実施する。また、前年12月1日から施行された「新公益法人制度」を受け、社団法人ゼンコロは「特例民法法人」となった。今後は、2013（平成25）年11月30日までに新法人への移行を進めるため、外部の有識者も役員に迎え、障害者への就労支援による民間企業とのコラボレーションや良質なサービス提供とともに出版事業、対外的な研修事業など公益的事業活動にさらに力を入れ、社会からの負託に確実に応えられる法人となるよう、努力を重ねていく。

2. 具体的な活動内容

- ① 日本障害者協議会に置かれた「社会支援雇用研究会」の活動に参加することにより、国内における歴史的系譜や各種資料の収集を図るとともに、国際的視野での障害者の働く権利に関する情報収集と提言作成などにも努める。
- ② これからはゼンコロなりの視点で、法を超える実践的な取組みの発掘とそれを制度化する取組みや、障害福祉にとって有益な実践事例の研究に努め、社会にそれらの取組みが情報として発信できるよう努力する。

- ③ 従来の組織と、新しい組織体制と主な役割、関係は次のとおりとする。

【総 会】最高決定機関。役割は定款のとおり。

【理 事 会】総会の付議事項の審議、その他重要事項の審議、承認。役割は定款のとおり。

【三役会議】執行部。役割は定款のとおり。

【運営委員会】ゼンコロ三役を補佐し、ゼンコロ総体の事実上の執行機関として活動し、次世代の育成を担う。また、新法人への移行検討などゼンコロの基本的な運営内容の課題に着手し、理事会へ提案する。課題の執行に当たっては事業プロジェクト、企画プロジェクトを統括しながら進める。

【事業プロジェクト】障害者雇用を望む民間企業のニーズに応える形でのコラボレーションを検討し、そのことを通して新しい印刷需要を掘り起こすこと等にチャレンジしつつ、合わせて全国の成功事例を検証しながら、印刷事業に代わる新しい事業展開を検討、実施する。また、ゼンコロの収益事業活動の安定を図るため、現在の環境事業の拡大・充実を進めるとともに、環境事業に代わる新しい事業にチャレンジする。

【企画プロジェクト】公益的事業をさらに高めることを主眼に、一般市民に向けた研修、教育、出版事業等を実施し、障害者福祉の向上に関わる情報の収集、調査、研究を担い、調査や研究結果の公表、広報誌発行、ホームページ更新・管理その他の広報活動を進める。

- ④ 以上の各組織の機能を高めるために、外部より理事及び監事に高度な知見を有する学識者を新しく迎えるとともに、事務局体制については協力企業と一体となった活動ができるよう、その機能強化に努める。
- ⑤ 東京コロニーからの「野村基金」を受け入れ、その趣旨を果たせるように今後のあり方も含め検討、実施する。
- ⑥ 前年度の事業報告・決算に関わる第53回総会および理事会を6月に、次年度事業計画・予算に関わる第54回総会および理事会を3月に、いずれも東京で開催する。
- ⑦ 既刊図書の販売とともに、新刊図書の出版と販売に努める。イエローリボン・バッジの販売を引続き進める。



理事会

2009(平成21)年度 予算書

全合計

(単位: 円)

科 目	前 年 度	当 年 度	増 減
《事業活動収支の部》			
〈事業活動収入〉			
会費収入	9,925,200	9,926,400	1,200
正会員会費収入	9,925,200	9,926,400	1,200
事業収入	19,300,000	17,300,000	▲ 2,000,000
売上収入	19,300,000	17,300,000	▲ 2,000,000
寄付金収入	200,000	0	▲ 200,000
寄付金収入	200,000	0	▲ 200,000
寄付金収入 (一般)	200,000	0	▲ 200,000
事業外収入	31,000	32,000	1,000
受取利息収入	31,000	32,000	1,000
雑収入	71,000	880,000	809,000
雑収入	70,000	180,000	110,000
書籍販売収入	1,000	700,000	699,000
繰入金収入	490,000	1,000,000	510,000
事業活動収入計	30,017,200	29,138,400	▲ 878,800
〈事業活動支出〉			
事業費支出	26,115,900	24,817,500	▲ 1,298,400
会議費支出	2,260,000	910,000	▲ 1,350,000
人件費支出	6,176,100	4,314,000	▲ 1,862,100
給与手当支出	5,293,800	3,744,000	▲ 1,549,800
賞与手当支出	882,300	570,000	▲ 312,300
消耗品費支出	140,000	160,000	20,000
通信運搬費支出	387,800	300,500	▲ 87,300
旅費交通費支出	2,930,000	1,550,000	▲ 1,380,000
印刷費支出	61,000	1,700,000	1,639,000
交際費支出	162,000	194,000	32,000
事務局使用料支出	600,000	600,000	0
研修費支出	100,000	400,000	300,000
関係団体費支出	850,000	532,000	▲ 318,000
研究資料費支出	390,000	686,350	296,350
会報印刷費支出	630,000	700,000	70,000
支払手数料支出	90,000	115,000	25,000
租税公課支出	11,000	12,000	1,000
仕入支出	11,066,000	12,300,000	1,234,000
業務委託費支出	252,000	287,500	35,500
雑支出	10,000	56,150	46,150
管理費支出	2,245,300	5,279,400	3,034,100
総会費支出	150,000	200,000	50,000
会議費支出	20,000	100,000	80,000
人件費支出	1,089,900	2,876,000	1,786,100
給与手当支出	934,200	2,496,000	1,561,800
賞与手当支出	155,700	380,000	224,300
消耗品費支出	150,000	156,000	6,000
通信運搬費支出	53,000	106,000	53,000
旅費交通費支出	45,000	750,000	705,000
交際費支出	30,000	30,000	0
事務局使用料支出	257,000	600,000	343,000
減価償却費	11,400	11,400	0
支払手数料支出	14,000	20,000	6,000
租税公課支出	5,000	10,000	5,000
業務委託費支出	420,000	420,000	0
繰出金支出	490,000	1,000,000	510,000
事業活動支出計	28,851,200	28,938,400	87,200
事業活動収支差額	1,166,000	200,000	▲ 966,000
《財務活動収支の部》			
〈財務活動収入〉			0
〈財務活動支出〉			
法人税等	1,166,000	200,000	▲ 966,000
法人税等	1,166,000	200,000	▲ 966,000
財務活動支出計	1,166,000	200,000	▲ 966,000
財務活動収支差額	▲ 1,166,000	▲ 200,000	966,000
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	23,577,543	20,225,592	▲ 3,351,951
次期繰越収支差額	23,577,543	20,225,592	▲ 3,351,951

新体制の合同委員会、福岡で開催



小峠常務

3月の臨時総会に提案された2009年度事業計画で、従来の三委員会に代わって新しく運営委員会を発足させ、その下に事業プロジェクト、企画プロジェクトと2つのプロジェクトを正式にスタートさせる新体制が承認されました。そして、6月の定期総会でその陣容を確定させ、同月の26日～27日に早くも合同の委員会を福岡コロニーにお世話になりながら、新宮町にある「シーオーレ新宮」にそれぞれの委員が一同に集まり、開催しました。

新公益法人制度が昨年12月に施行されたことに伴い、今後ゼンコロも5年間の間に「特例民法法人」として公益社団法人への移行を計画しており、その検討、実施を課題の一つに持つ運営委員会は、会員拡大、次世代の育成などゼンコロの運営そのものの基盤をどう再構築していくかが求められています。事業プロジェクトは、会員法人の主要な事業である印刷が大変厳しく、その安定化を求めていくとともに、次の時代をにらんだ新しい事業の模索と提案を担っています。また企画プロジェクトでは、公益法人としての活動を更に発展させるべく、広く社会と接点を持ちながら諸運動や内部の



全体会議

研修・教育など必要な事業を展開することとなっています。

2日間にわたって催された合同会議では、冒頭に福岡コロニーの小峠常務から「新体制に期待されること」をテーマにお話をお伺いし、武者事務局長から各委員会の課題の説明を受けて共有化を深めた後、それぞれに分かれて会議を持ちました。

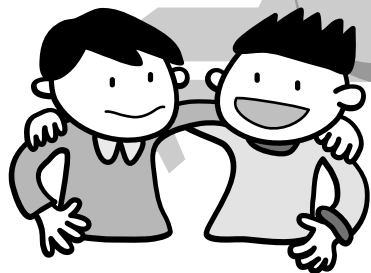


「シーオーレ新宮」前で

三委員会委員一覧

法人名	運営委員会委員			事業プロジェクト委員			企画プロジェクト委員		
	氏名	役職	役割	氏名	役職	役割	氏名	役職	役割
青森県コロニー協会	渡辺 幸太郎	青森コロニーセンター部長補佐		布施 卓実	作業開拓本部 部長補佐	副委員長	木下 おさむ	青森コロニーリハビリ支援課 課長補佐	
山形県コロニー協会	須貝 寿一	常務理事		山口 雄二	山形福祉工場 営業部長		渡辺 博樹	相談支援専門員(課長)	委員長
ながのコロニー	田山 弘之	長野福祉工場長		和田 今朝則	長野福祉工場 制作課長		宮崎 史郎	ワークスペース・篠ノ井所 所長	副委員長
東京コロニー	君島 久康	葛飾福祉工場 副所長	委員長	中村 敏彦	コロニー東村山 事業所長	委員長	井上 忠幸	コロニー中野 支援課長	
あかつきコロニー	高橋 毅	あかつき授産所施設長	副委員長	熊谷 昌博	営業部長		遠藤 至子	スペース・まどか施設長	
京都梅花園	人選中			人選中			人選中		
山口県コロニー協会	杉山 正胡	常務理事		加藤 元久	支援部長		人選中		
福岡コロニー	上野 和範	なみの里管理者(課長)		佐藤 信隆	製造部制作課長	副委員長	前野 保志	厚生課厚生係長	
佐賀春光園	人選中			坂井 幸二	指導員		大川 一成	主任指導員	
熊本県コロニー協会	人選中			後藤 貴司	印刷係長		人選中		
沖縄コロニー	金城 忠彦	常務理事	副委員長	金城 忠彦	常務理事		佐久川 清美	沖縄ワークショップ 所長	副委員長
ゼンコロ合計	8名			9名			8名		

北から南から



青森

第1回就労支援講習会

セルフステーション青森
生活支援員 蠣崎広樹

去る、7月8日(水) 13:00~15:00の日程で初の試みとなる就労支援講習会を、15名の参加で開催しました。この講習会は一般就労に向けて、現在の訓練科目である印刷以外の業種も勉強してもらいたいと企画しました。しかし、利用者を企業に派遣し研修させるには利用者も抵抗があるようで参加者も少なく、受け入れ企業もなかなか見つかりませんでした。そこで今回は施設に講師を派遣してもらい、施設内で研修を行うことにしました。ご協力いただいたのは(株)太平ビルサービス様で講師2名を派遣していただき講義と実技の講習となりました。講義では職場のマナー、安全、



挨拶などの社会人としての常識を学びました。その後、清掃器具の名前、特徴、扱い方などを聞き、実技に入

りました。実技は3班に分かれて実際に廊下を掃き掃除、拭き掃除をやっていただきました。普段は持ち方まで気にしないで使っていますが持ち方を教えられると、とても上手く扱う方と、かえって、ぎこちなくなってしまう方が見られました。

講習会が始まるまでは利用者の方がどんな反応をみ

せるのか心配でしたが、講師の方の問いかけに答えてくれて、楽しそうに講習を受けてくれました。終了後



のアンケートでも、また参加したいという意見が多く、今回は清掃でしたが個々に希望したい職種があるようなので出来る限り希望に叶うよう、今後がんばって探していきたいと思います。最後に利用者の方々の一般就労の為のスキルアップと理解して、学ぼうとする姿勢にはとても感心しました。

山形

天然酵母の食パンづくり

コロニーセンター
就労支援課係長 荒井藤雄

今年4月から製パン課に異動、パンづくりをしたこと無い私には悪戦苦闘の毎日です。

コロニーセンターは現在、沼の辺地区で活動していますが、平成22年2月には協会本部のある桜田地区に新築移転する予定です。他の施設でもパンづくり・販売を始めるところが増えて、差別化を図るためにも特徴のある食パンを作ろうと話になりました。



材料の小麦粉・酵母・砂糖・塩・水等の選定から始まり、身体にやさしいものと考え、北海道産小麦粉・天然砂糖・塩等に決定し素朴な食パンを、まずはつくろうとなりました。



山形のパン屋さんでも使っているところが無い小麦粉で、なかなかうまく焼け

ず、いろんな人からアドバイスをいただき、ようやく完成に近づきつつあります。他にライ麦や全粒粉・そば茶（山形はそばが有名）やクランベリーを練りこんだパンづくりの試作を行なっています。



これからネーミング・パッケージ・ラベル・パンフレット・販売先等進めていかななくてはならないことがたくさんあります。来年には販売を始めますので、皆さんお買い求め下さい。

ながの

善光寺御開帳を参拝して

ワークサポート篠ノ井 支援員 西條 真紀

長野市の国宝善光寺で4月5日から5月31日までの約2か月間にわたり、七年に一度の盛儀、善光寺御開帳が行われ、多くの方で賑わい活気にあふれた信州長野でした。

善光寺の御本尊は秘仏とされており、その御身代わりであり普段は御宝庫に安置されている前立本尊（一光三尊阿弥陀如来）を御開帳の時にだけ、特別にお姿を拝むことが叶います。善光寺はいずれの宗派にも属

さず、すべての人々の極楽往生の門として全国から多くの老若男女の皆さんが参拝されますが、今回の御開帳期間中には過去最多の673万人の方が参拝にお見えになりました。

本堂前には高さ10メートルの回向柱（杉の大木）が建ち、

本堂の阿弥陀如来の右手に結ばれた金糸は五色の糸に変わり、「善の綱」として回向柱につながれています。この回向柱に触れることは、前立本尊に触れるのと同



じこと…そこにあるがたい結縁が生まれ、その功德ははかりしれないといわれ大勢の方が回向柱に触れるため長い列になり、時には2時間待ちとなったようです。



今回、ながのコロニーでもグループ行楽行事の一つとして、御開帳コースをつくり30名の参加希望者が2グループに分かれ参拝に行きました。この他にもプロ野球観戦や映画、美術館巡り、動物園などいろいろなコースを設定しましたが、御開帳コースが希望者の多いコースになりました。同じ長野にしながら、なかなか御開帳を参拝する機会がなく、一度は訪れたいと思っていた方がほとんどでした。

善光寺のボランティアガイドさんをお願いして説明してもらうことができ、今まで知らなかった善光寺を知る機会にもなり、七年に一度の御開帳ならではの参拝客の多さではありましたが、それも皆さんにとっては貴重な経験だったようです。また、自分の目で阿弥陀如来の右手と結ばれている回向柱を見て、触れて、とてもありがたく満足されたようで、皆さんのおだやかで、清々しい表情が印象的でした。

善光寺は、敷地内に身障トイレが整備され、本堂に入るにもスロープが設置されているため、とてもスムーズに動くことができ、安心して参拝することができました。



御開帳を参拝した5月末は、全国で新型インフルエンザの流行が心配

され、行事中止ということも考えましたが、幸い長野ではまだ感染者がでていなかったこともあり、計画どおり実施したところでした。そのため、写真のように皆でマスクをしての参拝となったわけですが、ただ、マスクをしての参拝は私たちだけでしたが…。それも、思い出のひとつとなった善光寺御開帳参拝でした。

東京

今年の日帰り旅行

生産管理課 小山 茂夫

去る7月4日に2009年度の日帰り旅行が行われました。

今回は、初めての試みとして東村山、中野工場、福祉事業本部との合同旅行ということになりました。出発、到着場所は各工場ということではありましたが、東村山115名中野80名で総勢195名の参加となりバス合計5台での移動という大所帯となりました。季節的には梅雨時で梅雨前線が停滞し、お天気が心配されましたが当日は、“晴れ男、晴れ女”の参加のおかげか、時折晴れ間も覗くまづまづのお天気となりました。バスの乗車は希望の工場から選ぶことができ合同旅行の利点でもありました。またバスの中では、カラオケや映画鑑賞で楽しみながら移動できました。

今回の目的地は、神奈川県横須賀市長井海の手公園にある「ソレイユの丘」という所でした。「ソレイユ」とはフランス語で「太陽」という意味で、南フランス



プロヴァンス地方の香り漂う緑の丘をイメージして作られたようです。温暖な気候、豊かな緑と海に囲まれた南フランスプロヴァンス地方は、

多くの芸術家が愛した素朴で心温まる風光明媚な田舎。太陽の光があふれ、青い海、中世の遺跡が数多く残る美しい街並が広がります。ヨーロッパ有数のリゾート地としても人気の高いプロヴァンス。「ソレイユの丘」はこのプロヴァンス地方の景観をモチーフに、美しい街並と緑の牧場が魅力です。

目的地に到着するとまずは昼食。食事はバーベキュー食べ放題、日頃あまり顔を合わせることなく仕事をしている仲間達が合流し、見慣れた顔、懐かしい顔、



初めてみる顔が一同に会し、日頃の労をねぎらいながら、肉や新鮮な野菜とシーフードに舌鼓を打ち、ビール等で喉を潤し、和気藹々とした昼食会となりました。

昼食後は各グループに分かれ園内を散策し、乗馬、



ゴーカート、ミニSL、牛の乳絞り等々で楽しみながら、有意義な一時を過ごすことができました。

またお風呂施設も併設されており、私も行きましたが、遠くに海が見え、海洋深層水を利用した開放感あふれる露天風呂をはじめ寝湯、腰掛け湯、サウナなどがあり、ほぼ“コロニー御一行様”貸し切り状態で、参加者との裸のつき合いもでき、たいへん気持ちのいい時を過ごさせていただきました。

最後に全員で記念写真に納まりながらお互いの親交を深め合いました。それぞれがよい思い出として心に刻み、帰りのバスへ、そして無事各工場へ到着、次回の旅行が楽しみになるような今回の日帰り旅行でした。

あかつき

農作業

あかつき授産所 所長 高橋 毅

今回あかつきコロニーからは農作業についてご紹介します。作業といっても趣味程度で行っているもので、収穫したら所員で持ち帰って食べているというところですよ。今年の春、近所の方のご厚意で50坪ほどですが空いている農地を無償で借りることができまし



た。

農作業は非常に奥が深く、ましてや農作業経験の無い職員には勝手がわかりません。そこで湯澤理事長が先頭に立ち、利用者を引き連れ作物を育てています。

ジャガイモ、きゅうり、なす、ピーマン、トマトと比較的栽培しやすい作物を作っています。見てくれは良くありませんが、無農薬であること、そして自分たちで育てたという愛着もあるのでしょう。収穫したての野菜は大変美味しいです。

大変なのは草取りで、頻繁に畑に行っては草取りをしています。これから夏本番ですが、暑い中でやるには非常に大変で、農家のご苦勞も少しでしょうが味わっています。



先日遅まきながら枝豆を植えたところです。早く枝豆が出来て冷えたビールで一杯やることを楽しみにしています。

将来的には給食を直営に戻すことを考えており、あかつきで採れた野菜を給食で出していきたいと思っています。

京都

風船バレーボール大会

就労移行支援事業 支援員 木本 博光

私は、去年の春から高齢者（平均年齢53歳、知的障害者：7名、身体障害者：4名）の就労移行グループを担当しております。配属当時は、就労移行グループではありながら福祉的就労が色濃く残っていました。特に職員に対する施設利用者の依存傾向が高く、一般就労や地域移行に対する抵抗感、不安そして自信の無さがありました。このような状況無くすためには、どうすればよいのかと日々悩んでいた。その時、上司より京都知福協主催の風船バレーボール大会があると聞いて、「これは良いきっかけになるかも知れない。」と思い、出場を決意しました。

出場を決意したものの利用者はもちろん私自信も風

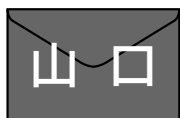
船バレーボールは未経験者でした。そこで、3つのことを目標としました。まずは風船に慣れることです。利用者が楽しくて飽きないように練習内容を工夫しました。次は声を出す練習です。つまりチームワークです。キーパーソンを中心に風船をつく回数や名前を掛け合うようにしました。最後は諦めないことです。上手くいかないことやしんどいことがあっても諦めない。このような目標を持って、約1ヶ月間できる限り練習を行いました。

大会は亀岡市市民体育館で行われました。3セットマッチ、ルールはバレーボールとはほぼ同じです。試合はトーナメント方式。各チームを4



ブロックに分け、各ブロック優勝チームが決勝トーナメントに進みます。体育館に入ると、利用者は広さや人の多さに驚いてざわざわされていました。そのような中で、初戦が行われました。やはり緊張が見られ、ミスを連発。しかし相手チームのミスにも助けられ、初戦を勝利しました。これ以降は勢いがつき、次々と勝ち続け、ブロック優勝、そして決勝戦に進みました。さすがに利用者は疲労されていました。しかし「辞めたい」や「しんどい」と言われる利用者がいないどころか、意思表示が苦手な方からも「絶対優勝する。」と力強い言葉まで聞けました。そして決勝戦、白熱あまり風船が割れる、追いかけて転ぶなど両チームとも必死にプレーされていました。そして見事、優勝することができました。共に喜び合い、優勝トロフィーや表彰状見せ合う姿は今でも鮮明に覚えています。

現在、このことを一つのきっかけとして、自分が変わらなければ、自分から何かしなければと感じて就労訓練や地域移行に向けた生活訓練をされている利用者が出て来ておられます。これは風船バレーボールを通じて達成感、自信、そして諦めないでやり続ける大切さを経験されたことが影響しているのではないのでしょうか。



レベルアップ研修

総務課 内田 静代

福祉施設の職場は措置から自立支援へと大きく変化し、これに携わる私たち職員は従来の施設運営から施設経営へと転換を迫られています。これに対応するには新たな能力を身につけなければならない。又、組織は上層部から変わらなければ大きな変化は難しい。

私たちの職場では管理・監督者及びリーダーなど将来の担い手となる人材の育成を目標に外部からの講師にお願いしてレベルアップ研修に取り組むことにしました。

- 1、EQI行動特性検査による自己分析
- 2、自らの仕事、職場を再点検、目標を設定し問題解決に取りくむ
- 3、フォローアップカウンセリング
- 4、自らの変化を確認し、生かしていく
- 5、EQI行動特性検査で成果検証カウンセリング
- 6、成果の発表

上記の予定で1年間をかけての研修でした。まず、印象に残ったのはEQI行動特性診断による自己分析です。



これまで自分の性格は充分承知していたつもりでしたが、改めて自己を見つめなおす事ができ、今後、仲間と接する時に注意しなければいけない事を把握することが出来た事です。又、効果的な質問方法や育成に役立つ話し方等、たくさんのいい勉強をさせていただきました。

実際にこの勉強が有効に活用されているかと言えば、ついつい忙しくなると頭の中から吹っこんでしまっ

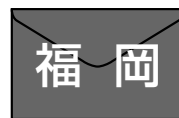
た。山口県コロニー協会前の蓮池



山口県コロニー協会前の蓮池

元のもくあみと反省しつつの毎日ですが、この研修の成果が必ずどこかで生きてくると思っています。

今後このような研修は、みんなが受講して、その結果、お互いのコミュニケーションが上手くいけば職場の雰囲気も良くなり、協会全体が活性化され、これから困難を極める事業経営についても、みんなで乗り切っていけると確信しています。



福岡県ソフトボール大会に「なのみ工芸」参戦 ～「悲願の優勝旗をその手に」～ なのみ里課長 上野 和範

5月28日、福岡市雁の巣レクリエーションセンターで開催された「県ソフトボール大会」に福岡コロニーから「なのみ工芸チーム」が参加しました。今年もDパートでの出場。ここ数年の成績不振を払拭すべく、厳しい練習を重ね、「福岡コロニー野球部」との合同練習・練習試合などでレベルアップを図り、優勝目指して挑んだ大会です。



第一試合は「なのみ園」戦。

「右のエース江熊」の先発。相手は昨年Eパート優勝の勢いそのままに、その立ち上がりを攻め、3点を先制される。しかし、大会前から調子が上向きの打線がすぐに反撃、3点を取り返して同点。その後は落ち着きを取り戻した江熊がしっかり0点に抑えると、猛打爆発で、16対3の快勝。



第二試合は「みろく園」戦。昨年も好勝負を繰り広げたこの一戦。今年は「左のエース光吉」で挑む。昨年は

制球が定まらず大敗を喫したが、その借りを返すべく1年間ピッチング練習に励み続け、その成果を十分に発揮して2回まで1失点で切り抜ける。好投に応えたい打線は2回の裏にワンチャンスをものにして3点を奪い

逆転に成功！安定感の増した左のエースは、反撃を許すことなくゲームセット。3対2で決勝進出を決める。

第三試合は決勝「天心園」戦。ついに悲願の大優勝旗を手にするまであと1勝。ところが、決勝独特の雰囲気、先発江熊は立ち上がり制球を乱し6点を失う。交代した光吉も剛球を投げ込むが調子が上がらず、再び6失点。好調な打線も相手の好守に阻まれ、3回を終え6対13と苦しい展開となる。誰もが最悪の事態を予想した。しかし、選手たちはあきらめなかった。セカンド田中の超ファインプレーが飛び出す。流れを一気に引き寄せる。その裏、8番小門のヒットから一挙5点を奪い2点差。打線に励まされた光吉は最終回を0点に抑える。その裏、1アウト満塁。バッター3番・江熊。失点の借りを返すべく、気合十分で打席へ。「一年間の成果をこの一打に」。放たれたすどい打球が外野の間を抜けていく…。この瞬間、ベンチと応援団から大きな歓喜の声が。

8年目にして掴んだ栄光、初めて優勝旗を手にした。大会後の慰労会では、辛い練習を振り返りながらも、来年もぜひ優勝しようとみんなで誓い合っていました。



佐賀

「世紀の天体ショー」を楽しんで！

組版係 中島 宗徳

46年振りに日本国内で見られる皆既日食で日本中が賑わう中、佐賀でも太陽の約90%が月に隠れる部分日食の観測が楽しめるということもあって、佐賀春光園でも宇宙に興味がある人、また自分の子供の夏休みの宿題の材料にしたいという人、そしてめったに見られない天体ショーを



見たい人が前日から印刷室に捨ててあるドライフィルムで思い思いの日食グラスを作り世紀の天体ショーを楽しみました。

天体ショーが繰り広げられる朝は、空いっぱい分厚い雲に覆われて天体ショーが観察されるか心配でしたが、部分日食が始まる9時37分には、それまで覆っていた分厚い雲も薄くなり、雲の割れ目から太陽も顔を出し絶好の天体ショー観察日和になりました。利用者も職員も、また来園していた業者の人も仕事そっちのけで作業棟の西側広場に出て、作った日食グラスで観察する者、またデジカメのレンズにフィルムを被せ太陽に照準を合わせ撮影する者と空の上で行われているショーを楽しみました。

太陽は、9時37分ぐらいから右上から欠け始め、10時56分には最大に欠けて、細長い三日月状態になりました。その瞬間、周囲が少し薄暗くなり、あちらこちらから「わー、すごい。すごい。」と歓声が上がりました。

次回、国内で見られる皆既日食は26年後ということで、一部の高齢の人達から「冥土の土産になったね。」という会話も聞かれました。宇宙の神秘と不思議を実感したひとときでした。



熊本

“スリムドカン運動”

総務課長 大島 武文

熊本コロニーでは、今「スリムドカン運動」に取り組んでいます。“スリムドカン”とは、無駄なものをなくして“スリム”にし、“ドカン”と儲かるという意味です。元は漢方はやせ薬の名称で、それを振ってネーミングしました。

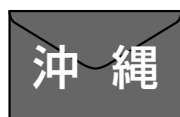
別頁（西山新理事長へインタビュー）にもありますように、熊本コロニーは平成21年5月25日付で新体制にてスタートすることになりました。熊本コロニーは今年創立60周年を迎えます。諸先輩方が築いてこられた

永い歴史に支えられ、ここ数年の厳しい経営環境をなんとか乗り越えている状況です。

西山新理事長が就任され、約2か月が経過しました。日本の経済状況の厳しさはもう暫く続くと予想されます。その状況下では、収入増に対する取り組み(印刷事業の売上増・新規作業種目・色々な補助金の活用)はもちろんのこと、まず支出を見直し(コスト削減)無駄をなくすることが第一であります。

理事長からの指示を受け、どういう方法で「スリムドカン運動」に取り組むのか色々考えました。水道光熱費のムダをなくすことは当然取り組みの一つになりますが、金銭的な効果がわかりにくいこともあり、各部門の「平成21年度予算の見直し」という方法にしました。目標額は各部門の当初予算の10%削減で、金額で約700万円です。

各部門でのスリムドカン運動(コスト削減)への取り組み方法を6月末まで整理した上で、7月1日に理事長から全従業員を集めて、「スリムドカン運動」についての趣旨説明がありました。まずは「スリムドカン運動」の金銭的な効果がでること、そして予算を考える上での「支出に対する意識の向上」を目標に、これから具体的に取組んでいきます。



「児童デイサービス みやぎ」オープン

沖縄コロニーセンター 支援員課長 仲宗根 義海

7月1日、法人所在地である浦添市宮城に「児童デイサービスみやぎ」がオープンしました。児童デイサービス事業所としては、「児童デイサービスちゃたん」、「児童デイサービスのほりかわ」に次いで3箇所目の事業所となります。

当法人では、一昨年より児童という新たな分野への事業を開始し、平成19年4月に行政の要望等も踏まえ、沖縄県中部の北谷町に「ちゃたん」を開所しました。利用者ニーズは我々の予想を大きく上回り、短期間のうちに利用者がいっぱいになり、利用希望に応える為、翌年の10月には北谷町に隣接する沖縄市に「のほりかわ」を開所し、現在どちらの事業所も常に利用者でいっぱいの状況です。

それらの状況より「みやぎ」について昨年末より検討を行い、新規事業への積極的な挑戦という今年度の大きな経営方針に沿った形で、準備を進めてきました。



各事業所は、定員が10名の小規模事業所で、障害のある未就学児から18

才までの児童を対象としており、自立支援法に基づく児童デイサービス事業と市町村事業の日中一時支援事業を併用する形でサービスの提供を行っています。児童デイサービス事業は療育を目的とし、日中一時支援事業は家族の負担軽減等の為の一時預かりを目的としています。

さて、「みやぎ」の状況ですが、多くの方々の支援を頂き、相談件数、利用契約件数も予想以上の実績となっており、日々のサービスでは子供達の状況把握がこれからという中、戸惑いも多く、落ち着くまでにはしばらく時間がかかりそうです。事業所に求められている役割をしっかりと認識し、子供達への支援を通して信頼される事業所づくりを目指して努力を重ねていきたいと

考えております。今は、子供達の成長と共に事業所も成長し続けること



を夢に描き、希望に満ち溢れています。

児童分野への新たな挑戦から3年目を迎え、沖縄コロニーの特徴ある事業所を築けるよう頑張っています。



熊本県コロニー協会 西山新理事長にインタビュー



1. 今日は、5月25日に社会福祉法人熊本県コロニー協会理事長に就任されました、西山敬直（ひろなお）さんにインタビューさせていただきます。お疲れ様です。どうぞよろしくお願いします。

初めまして。こちらこそよろしくお願いします。

2. まず始めにお伺いします。理事長を就任されおよそ2か月が経過しましたが、熊本コロニーの印象はいかがですか？

当協会では、約150人の健常者、障害者の皆さんが、手を携えて障害者の自立支援、あるいは自らの自立のために努力しておられます。

その姿は美しく尊いもので、私自身協会の持続的発展の為に頑張らなければならないと思っています。

3. ご出身は熊本ですか？

熊本です。大学生時代には、少年キャンプのリーダーとして身体障害児や知的障害児の皆さんとのキャンプを楽しんでおりました。

4. 熊本県庁で重職をされていたと聞いていますが、県庁に入られるきっかけや県庁では主にどのようなお仕事をされましたか？

県庁だけしか合格しなかったので県庁に入った訳で、いろいろ仕事をさせていただきましたが、特に最後の8年は熊本県の水産業の振興をやらせてもらっておもしろくもあり、やりがいもありました。

5. 理事長を就任された思いは？

私自身、生まれながら右上下肢の機能不全という障害と共に生き、また67歳という年にこの仕事に就かせていただいたことを考えると、少々大袈裟ではありますが、私の人生の集大成の気持ちで頑張るつもりです。よろしくお願いします。

6. 福祉の現状をどのようにお考えですか？

社会経済情勢の悪化で福祉予算が削られる傾向にありますが、障害者の自立支援のためには、人的・物的資源とも十分な手当が必要であると考えています。

しかし、現在の情勢ではなかなか難しいことであり、私たち福祉に携わる者が、福祉の向上のために、ソフトな知恵を出し、創意工夫を凝らさなければならない時代が来ていると考えています。

7. 今後、歴史ある協会をさらに発展させるための抱負をお聞かせ下さい。

ある人の本で、人間が生きていく上で又仕事の上で大切な事は、素直な心・勉強（読書）好き・プラス思考の3つをあげておりました。組織の中でもその構成員ひとりひとりが上記の3つの心がけを持ち続け行動すれば、組織が活性化するものと思います。したがって、私も職員の皆さんと共に、素直な心を持って、勉強（経験、読書を積む）し、プラス思考で前向きに行動すればコロニー協会は持続的に発展すると思います。

8. 仕事や生活において大切にしている言葉（座右の銘）はなんですか？

「和して同ぜず」と言う言葉がありますが、組織の中で自分の周りとの調和、協力をはかると共に周りに埋没することなく自己の主体性を持って行動することも肝要であるということでもあります。

9. お忙しい中、リラックスできる趣味をお持ちですか？

趣味といえば読書ぐらいのものです。

10. 心強いご発言の数々、ありがとうございました。最後に職員みなさんに一言お願いします。

ともに知恵を出し合い、コロニー協会の発展のために頑張らしましょう。

編集後記

表紙の碑

今年6月25日から26日にわたって福岡で開催された、新三委員会の初回合同会議後に、古賀市にある福岡コロニー「なみの里」を見学した時に表紙の「碑」を撮影しました。碑は二対となっており、もう一つの碑には次の文章が刻まれていました。「退院後帰家もない結核患者が1952年10月、国立療養所のポンプ小屋を借りて住みついた。みんなが永住でき、仕事場もある理想郷「コロニー」を目指していた。主唱者飯野公二氏を故松尾弘房医師、故長崎秀雄氏(初代理事長)が支援し、1955年共同募金を受領、翌年社会福祉法人を設立した。1992年10月1日 社会福祉法人福岡コロニー」

正直に言って、今の今まで「人間回復の砦」の碑があるなど思いもよらず、発見(?)した時は大変に驚き、深い感動を覚え、思わずデジカメのシャッターを押しました。今から17年前に建てられたことになりませんが、「先輩たちの、生きるための壮絶な戦いは決して忘れない。」という福岡コロニーの堅い決意と、常に原点に立ち返る姿勢を強く感じました。ゼンコロの歴史の深さと、未来に対する責任を改めて痛感させられています。(事務局)





MP-5000
マルチカードプリンタ



MP-2100
高品位名刺はがきプリンタ



MP-300
名刺専用プリンタ



MP Master
専用組版アプリケーションソフト



60th Anniversary



株式会社 **ムサシ** 〒104-0061 東京都中央区銀座8-20-36 第二営業本部 <http://www.musashinet.co.jp/>



DYNIC (製造元)

東京第二支店 03-3546-7716
札幌支店 011-708-3541

仙台支店 022-227-9185
東関東支店 043-202-7561

神静支店 045-461-3400
北関東支店 048-640-5795

名古屋支店 052-581-7307
大阪支店 06-6745-1634

中四国支店 082-232-9261
福岡支店 092-282-6301

FUJIFILM

最近、貫禄が付きまして
余分なものもつきまして

ぽっこりが気になる人に
メタバリア

ストレスを
感じやすい...

運動の
習慣がない...

外食が多い...

(約)90日分 [360粒] (約)30日分 [30粒]

元気を内から守る
アスタキサンチン仲間たち

目えないダメージが気になる人に
オキシバリア

ストレスを
感じやすい...

運動の
習慣がない...

外食が多い...

(約)90日分 [180粒] (約)30日分 [30粒]

ピンと弾む、上向き美肌へ
ASTALIFT

左から
クレンジングジェル/クリーム/リキッドソープ/ディプロテクター
ローション/エッセンス/ドリンク/サプリメント

健やかな輝きが、消えてく。
nanofilt

左から
クリアソープ/クレンジングジェル/ローションI(さっぱり)/エマルジョンI(さっぱり)
ローションII(しっとり)/エマルジョンII(しっとり)/ディプロテクター

富士フイルム グラフィックシステムズ株式会社 商品のお問い合わせ/電話 0120-596-221 株式会社 富士フイルムヘルスケア ラボラトリー

福祉施設の企画・総合計画・改造計画・設計監理



一確かな経験と豊富な実績一

昭和44年の創業以来、北海道から沖縄まで全国各地に600件の公立・民間の福祉・医療施設建設を手がけた、数多くの経験と実績があります。施設の移転計画、増改築計画等、どんなことでもお気軽にご相談ください。計画・申請から設計/監理にいたるまで一貫したお手伝いをさせていただきます。

株式会社 新環境設計
代表取締役 平松良洋
〒113-0033 東京都文京区本郷4-10-7 本郷MKビル
TEL. 03-5800-0321 FAX. 03-5800-0505
<http://www.shinkankyo.co.jp>

ゼンコロ出版物のご案内



「わがまちの障害福祉計画」

財団法人日本障害者リハビリテーションの協力を得て、同協会発行の『ノーマライゼーション』に連載されている44自治体の「わがまちの障害福祉計画」シリーズをまとめた。地域における障害者福祉計画研究の必読の書。

2009年2月発行 定価1,000円

「障害者の就労支援と国際基準 — ILO159号条約違反の提訴への回答と今後の対応 —」

「日本の障害者雇用政策はILO159号条約に違反している」と、全国福祉保育労働組合が2007年8月15日ILOに申し立てた問題で、委員会を設けて審査していたILOの報告書が2009年3月末に公表された。それに対する見解を同労組がまとめた。ILOは「条約違反」という直接的な言葉こそ使わなかったが、授産施設で働く障害者にも労働法規を適用することの必要性を示唆し、障害者自立支援法下で働く場に利用者負担が導入されたことへの懸念も示している。

2009年6月発行 定価500円



障害者の就労支援と国際基準
— ILO159号条約違反の提訴への回答と今後の対応 —

発行：全国福祉保育労働組合

(お申込はゼンコロ事務局まで)